

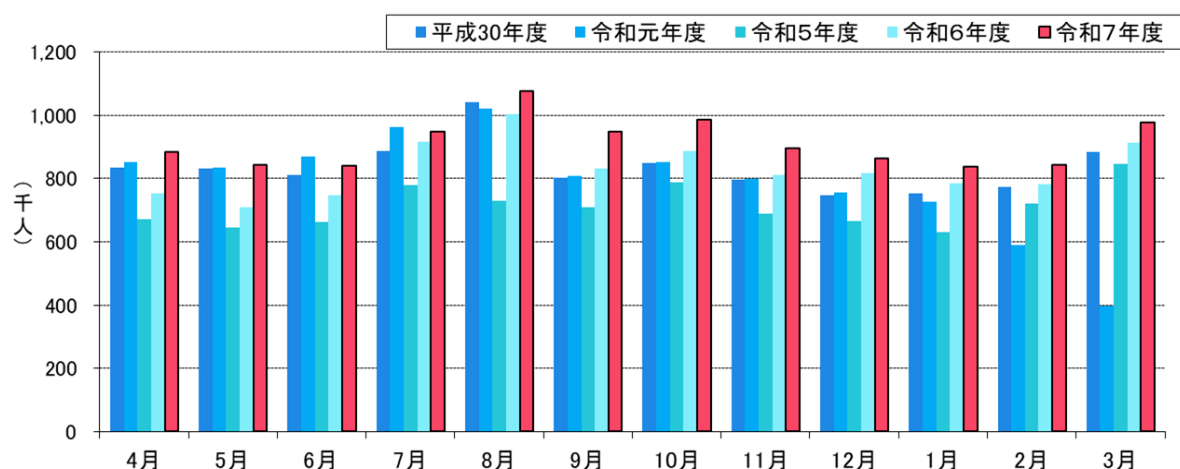
令和7年度 沖縄県入域観光客統計概況（確定版）

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和8年6月発表

令和7年度 1,093万5,300人
対前年度(R6)比 +98万2,600人、+9.9%
年度では過去最高
※過去最高年度（H30）比 +93万1,000人、+9.3%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成30年度、令和元年度、令和5～7年度）



■令和7年度入域観光客の状況（令和6年度・平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度	882.6	842.6	838.9	947.6	1,074.9	948.6	986.1	894.5	862.8	836.0	842.8	977.9	10,935.3
令和6年度	752.3	710.4	748.0	915.4	1,003.8	830.9	886.9	811.2	816.4	783.4	781.4	912.6	9,952.7
増減数	130.3	132.2	90.9	32.2	71.1	117.7	99.2	83.3	46.4	52.6	61.4	65.3	982.6
増減率	17.3%	18.6%	12.2%	3.5%	7.1%	14.2%	11.2%	10.3%	5.7%	6.7%	7.9%	7.2%	9.9%
平成30年度	833.2	830.9	809.7	885.8	1041.5	801.5	849.3	795.2	747.5	753.5	772.2	884.0	10,004.3
増減数	49.4	11.7	29.2	61.8	33.4	147.1	136.8	99.3	115.3	82.5	70.6	93.9	931.0
増減率	5.9%	1.4%	3.6%	7.0%	3.2%	18.4%	16.1%	12.5%	15.4%	10.9%	9.1%	10.6%	9.3%

■令和7年度の概況（総括）

令和7年度の入域観光客数は1,093万5,300人となり、対前年比で98万2,600人増（9.9%増）となった。また、これまで最多を記録した平成30年度に対して9.3%上回り、過去最多の記録となった。

令和7年度は、国内観光客数が過去最高を記録したほか、外国人観光客数についても、国際航空路線やクルーズ船の再開・新規就航によりコロナ禍前（平成30年度）の水準に概ね達している。

令和8年度については、国内観光客数が好調な状況であること、外国人観光客数が航空路線の増便・新規就航があることやクルーズ船の寄港が多数予定されていること等から引き続き好調に推移すると見込まれる。

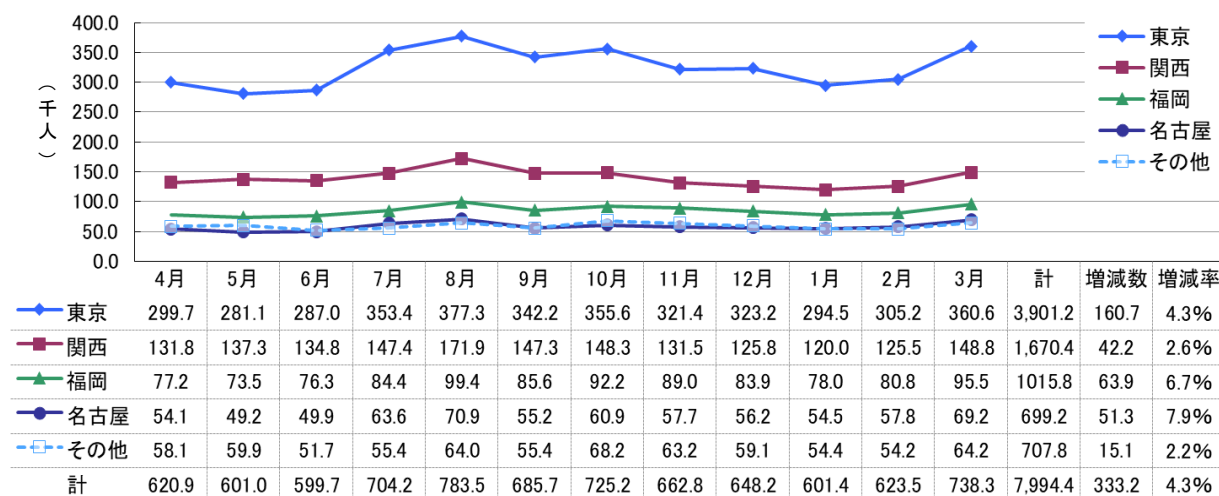
国内観光客についての動向

■令和7年度国内観光客の状況（令和6年度・平成30年度との比較）

(千人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度	620.9	601.0	599.7	704.2	783.5	685.7	725.2	662.8	648.2	601.4	623.5	738.3	7,994.4
令和6年度	593.4	561.5	577.6	692.3	768.8	634.6	694.5	636.8	612.3	566.8	606.4	716.2	7,661.2
増減数	27.5	39.5	22.1	11.9	14.7	51.1	30.7	26.0	35.9	34.6	17.1	22.1	333.2
増減率	4.6%	7.0%	3.8%	1.7%	1.9%	8.1%	4.4%	4.1%	5.9%	6.1%	2.8%	3.1%	4.3%
平成30年度	556.4	514.6	534.6	595.0	741.5	571.0	602.8	604.1	570.3	523.7	532.1	657.4	7,003.5
増減数	64.5	86.4	65.1	109.2	42.0	114.7	122.4	58.7	77.9	77.7	91.4	80.9	990.9
増減率	11.6%	16.8%	12.2%	18.4%	5.7%	20.1%	20.3%	9.7%	13.7%	14.8%	17.2%	12.3%	14.1%

■国内観光客の状況（方面別の月別推移）



【方面別の動向】

東京方面 夏休みや年末年始等の連続休暇期間中を中心に臨時便・季節運航があったことのほか、年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

関西方面 夏休みや年末年始期間中における増便があったことのほか、年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

福岡方面 夏休みや年末年始期間中における増便があったことのほか、年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

名古屋方面 夏休みや年末年始等の連続休暇期間中を中心に臨時便・増便・季節運航があったことのほか、年間を通しての輸送実績が好調に推移したこと等から、前年度を上回り過去最多を記録した。

■国内観光客の概況

令和7年度は、旅行需要を見込んだ航空会社による臨時便・増便・季節運航等の実績が好調に推移したことから、前年度比で増加となった。年度では、これまで最多であった令和6年度を上回り過去最多を記録した。

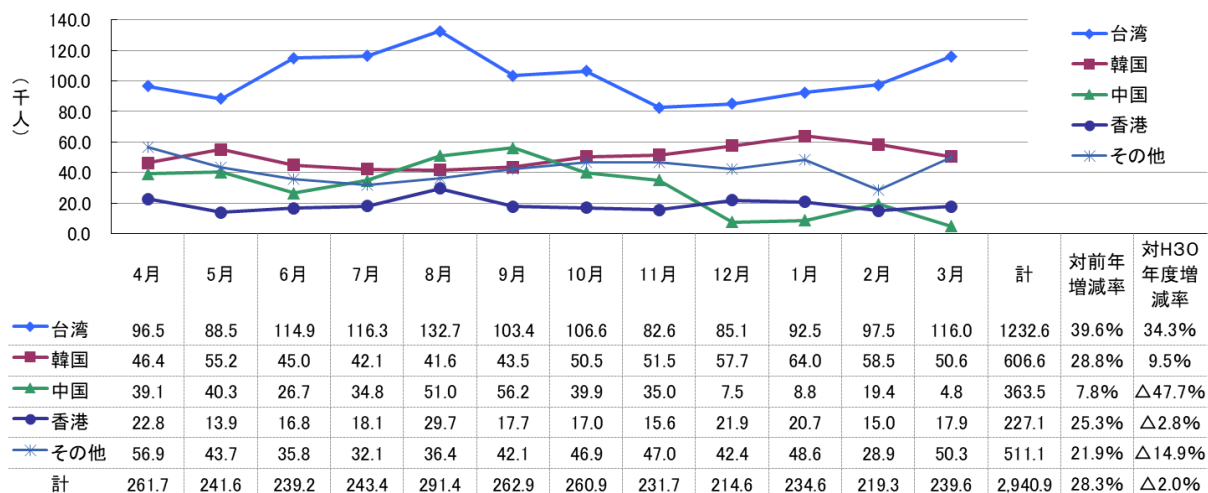
令和8年度は、引き続き各方面からの輸送実績が好調に推移することが見込まれるほか、国内・県内発着のクルーズが複数回予定されていること等から、好調に推移すると見込まれる。

外国人観光客についての動向

■令和7年度外国人観光客の状況（令和6年度・平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度	261.7	241.6	239.2	243.4	291.4	262.9	260.9	231.7	214.6	234.6	219.3	239.6	2,940.9
令和6年度	158.9	148.9	170.4	223.1	235.0	196.3	192.4	174.4	204.1	216.6	175.0	196.4	2,291.5
増減数	102.8	92.7	68.8	20.3	56.4	66.6	68.5	57.3	10.5	18.0	44.3	43.2	649.4
増減率	64.7%	62.3%	40.4%	9.1%	24.0%	33.9%	35.6%	32.9%	5.1%	8.3%	25.3%	22.0%	28.3%
平成30年度	276.8	316.3	275.1	290.8	300.0	230.5	246.5	191.1	177.2	229.8	240.1	226.6	3,000.8
増減数	-15.1	-74.7	-35.9	-47.4	-8.6	32.4	14.4	40.6	37.4	4.8	-20.8	13.0	-59.9
増減率	-5.5%	-23.6%	-13.0%	-16.3%	-2.9%	14.1%	5.8%	21.2%	21.1%	2.1%	-8.7%	5.7%	-2.0%

■外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



【市場別の動向】

台湾

航空路線では、那覇－台北路線や下地島－台北路線の新規就航があったほか、基隆、高雄発のクルーズ船が多数寄港したこと等により、前年度を上回り過去最多を記録した。

韓国

航空路線では、那覇－清州路線の新規就航や石垣－仁川路線の新規就航・増便があったこと等により、前年度を上回り過去最多を記録した。

中国本土

航空路線では、那覇－杭州路線の運航再開があったが、一部航空路線の欠航・減便があったこと等により、平成30年度の52.3%の水準となっている。

香港

航空路線では、石垣－香港路線の運航再開があったほか、香港発のクルーズ船が多数寄港したこと等により、平成30年度の97.2%の水準に達している。

■外国人観光客の概況

令和7年度は、航空路線の新規就航や運航再開、増便があったことのほか、クルーズ船寄港回数の増加等により、前年度比で64万9,400人の増(28.3%増)となった。平成30年度と比べると、航空路線の新規就航やクルーズ船寄港回数の増加等に伴い、98.0%の水準に達している。

令和8年度は、航空路線において那覇－台中路線(3/30～)、下地島－釜山路線(4/2～)の新規就航のほか、石垣－仁川路線(3/29～)、下地島－仁川路線(3/29～)、那覇－シンガポール路線(4/2～)、那覇－高雄路線(4/17～)の増便があること、大型クルーズ船の寄港も多数予定されていること等から引き続き堅調に推移すると見込まれる。一方、中東情勢による航空便欠航や運賃高騰などの影響も注視していく必要がある。